

【】内の空欄を埋めなさい

舟状骨骨折は【】型に分類され、【】1/3部（腰部）の骨折が多い。症状は手関節、特に【】の腫脹を認める。運動制限と運動痛は【】かつ【】に際し著明である。圧痛は舟状骨【】部に認める。第2・【】中手骨の骨軸に沿って軸圧痛がある。陳旧性の場合、手関節の運動痛、運動制限、【】などがある。固定肢位では、手指は【】を握った形で固定する。固定期間は骨折の部位によって異なるが8～【】週間必要である。合併症には、【】の脱臼、手根中央関節の脱臼、月状骨脱臼がある。難治の理由には【】位骨片への血液供給が絶たれやすく、関節内骨折のため【】性仮骨が期待できない事がある。

月状骨骨折の発生機序は、月状骨が【】骨と【】骨に圧迫されて骨折が発生する。症状には第3指および第【】指の長軸に沿った軸圧痛がある。壊死に陥ったものでは、【】病類似の臨床像を呈するので注意が必要である。

中手骨頸部骨折では、第【】・5中手骨の発生頻度が高い。症状は外力と【】筋および虫様筋の作用により骨折部は【】側凸の変形を示す。整復法では、患指の中手指節関節を【】に屈曲する。中手骨骨幹部骨折の横骨折部は、【】筋の作用が主で【】側凸の変形をきたす。斜骨折および螺旋骨折では、回旋転位と【】転位が生じる。回旋転位はごく軽度であっても【】を作り、障害を残す。特に第【】および第5中手骨では著明に出現する。固定時の注意では、MP関節を強く屈曲すると遠位骨片が【】屈し、骨折部の【】側変形を起こしやすい。

ベネット骨折は第1中手骨基部【】面の脱臼骨折である。注意事項として整復位の【】が困難であり再転位しやすい。症状では【】筋の収縮により中枢に引かれ、更に【】筋によって内転屈曲変形が加わる。

基節骨骨幹部骨折では、近位骨片は虫様筋や【】により屈曲、遠位骨片は背側【】などの牽引により背側に転位し、骨折部は掌側凸変形を示す。

中節骨骨幹部骨折では、骨折部が浅指屈筋腱附着部の遠位にあるか近位にあるかによって逆の変形を示す。すなわち骨折部が浅指屈筋腱附着部よりも遠位にある場合の近位骨片は浅指屈筋腱によって掌側に引かれる為、骨折部は【】側凸の変形を起こす。これに対し骨折部が浅指屈筋腱附着部の近位にある場合は、遠位骨片が浅指屈筋腱によって【】側に引かれ短縮し、近位骨片は伸筋腱によって背側に引かれ骨折部は【】側凸の変形をきたす。固定法では【】指屈筋腱附着部より遠位部の骨折ではPIP関節・DIP関節【】位で、【】指屈筋腱附着部より近位部の骨折ではPIP関節・DIP関節伸展位で固定する。

【】内の空欄を埋めなさい

舟状骨骨折は【4】型に分類され、【中央】1/3部（腰部）の骨折が多い。症状は手関節、特に【スナッフボックス】の腫脹を認める。運動制限と運動痛は【背屈】かつ【橈屈】に際し著明である。圧痛は舟状骨【結節】部に認める。第2・【1】中手骨の骨軸に沿って軸圧痛がある。陳旧性の場合、手関節の運動痛、運動制限、【脱力感】などがある。固定肢位では、手指は【ボール】を握った形で固定する。固定期間は骨折の部位によって異なるが8～【12】週間必要である。合併症には、【橈骨手根関節】の脱臼、手根中央関節の脱臼、月状骨脱臼がある。難治の理由には【近】位骨片への血液供給が絶たれやすく、関節内骨折のため【骨膜】性仮骨が期待できない事がある。

月状骨骨折の発生機序は、月状骨が【橈骨 or 有頭】骨と【橈骨 or 有頭】骨に圧迫されて骨折が発生する。症状には第3指および第【4】指の長軸に沿った軸圧痛がある。壊死に陥ったものでは、【キーンベック】病類似の臨床像を呈するので注意が必要である。

中手骨頸部骨折では、第【4】・5中手骨の発生頻度が高い。症状は外力と【骨間】筋および虫様筋の作用により骨折部は【背】側凸の変形を示す。整復法では、患指の中手指節関節を【直角】に屈曲する。中手骨骨幹部骨折の横骨折部は、【骨間】筋の作用が主で【背】側凸の変形をきたす。斜骨折および螺旋骨折では、回旋転位と【短縮】転位が生じる。回旋転位はごく軽度であっても【オーバーラッピング】を作り、障害を残す。特に第【2】および第5中手骨では著明に出現する。固定時の注意では、MP関節を強く屈曲すると遠位骨片が【掌】屈し、骨折部の【背】側変形を起こしやすい。

ベネット骨折は第1中手骨基部【掌尺側】面の脱臼骨折である。注意事項として整復位の【保持】が困難であり再転位しやすい。症状では【長母指外転】筋の収縮により中枢に引かれ、更に【母指内転】筋によって内転屈曲変形が加わる。

基節骨骨幹部骨折では、近位骨片は虫様筋や【骨間】により屈曲、遠位骨片は背側【腱膜】などの牽引により背側に転位し、骨折部は掌側凸変形を示す。

中節骨骨幹部骨折では、骨折部が浅指屈筋腱附着部の遠位にあるか近位にあるかによって逆の変形を示す。すなわち骨折部が浅指屈筋腱附着部よりも遠位にある場合の近位骨片は浅指屈筋腱によって掌側に引かれる為、骨折部は【掌】側凸の変形を起こす。これに対し骨折部が浅指屈筋腱附着部の近位にある場合は、遠位骨片が浅指屈筋腱によって【掌】側に引かれ短縮し、近位骨片は伸筋腱によって背側に引かれ骨折部は【背】側凸の変形をきたす。固定法では【浅】指屈筋腱附着部より遠位部の骨折ではPIP関節・DIP関節【屈曲】位で、【浅】指屈筋腱附着部より近位部の骨折ではPIP関節・DIP関節伸展位で固定する。